

令和4年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(令和5年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>泉谷 隆夫（川上村議会議長） 浦西 勉（元龍谷大学教授） 新井 寿彦（川上村教育委員会次長） 塩谷 章次（川上村議会総務文教委員長） 塩見 浩之（奈良県水循環・森林・景観環境部長） 下楠 朋之（橋本市水道環境部長） 末松 新一（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 杉浦 淳（大阪工業大学研究支援・社会連携センター長） 杉本 晃一（川上村住民課長） 谷本 光司（一般社団法人 近畿建設協会理事長） 中村 嘉宏（和歌山市企業局長） 西野 浩行（奈良県水道局長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 阪口 和久 代表理事・副理事長（川上村副村長） 森脇 深 業務執行理事（川上村水源地課長） 西久保 智美（コミュニティーライター） 橋本 裕行（明治大学文学部兼任講師 橿原考古学研究所特別研究員） 前 浩輔（川上村立川上小・中学校校長） 宮口 侗迪（早稲田大学名誉教授） 横田 岳人（龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課程准教授） 芳川 一宏（奈良県水循環・森林・景観環境部 水資源政策課長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 6日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月24日（評議員選任の件、理事、監事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月25日（代表理事の選任の件） 臨時理事会 11月21日（利益相反取引について） 定例理事会 3月23日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

II. 事業の状況

公益事業 I	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。</p>				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー(一般公募型)	9・11・3月	3回	42名	水源地の森での体験学習。定員を減らすなど感染症対策を行った上で実施。
団体(企業含む)研修等での利用	通年	10件	219名	「水源地の森」散策や森づくり体験等。
環境教育支援(学校対応)	通年	107件	5,502名	小学校から大学の見学案内及び出張源流教室(オンラインを含む)
森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー	6.7.9.2月	5回	118名	近畿 ESD コンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり。2/11 に実践報告会を開催。
源流人会の運営	通年	-	個人 49 団体 6 家族 21	会員募集、管理。定期情報の発信。山の神行事等会員限定行事の実施。
村民グループの自主活動支援	6.8.10.2.3月	5回	36名	源流人会のうち、村民による「川上村自然観察研究会」との観察・調査協力、勉強会。

公益事業 II	流域交流・啓発にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。</p>				
	時期	回数	参加数等	概要
源流のつどい 草刈りボランティアの機会づくり	6月	1回	7名	旧白屋地区の草刈り・外来種の駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる意識啓発。
夏休み(館内)プログラム	7~8月	7種	-	村民を講師に「木の端材ネックレスづくり」ほかのプログラム、職員による自由研究の相談、観察会を実施。4
水源地の森守募金	通年	-	196,475円	寄せられた募金は環境保全啓発のためのチラシ印刷や看板製作に充当。
流域等各地へのPRキャラバン	通年	2回	-	「和歌山浦しらすまつり」「川上村剣道交流大会」に出展・参加。
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや各事業報告・調査レポートなど。

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	5・6・8・10月	4回	71名	参加者公募型の調査。8月実施分は河川で回収したゴミの回収と分別をおした環境保全学習をメディア発信。
旧白屋地区の定期観察と発信	通年	—	—	白屋地区の資源利用について、現状の利用実態を調査し、住民参加型地域協働について考察。
水源地の森下層植生調査	6・10月	4回	10名	水源地の森でニホンジカの食害を防ぐ防鹿柵を設置し、下層植生の回復状況の調査を継続。
水源地の森自然環境調査	9～2月	—	—	平成14年度から令和3年度までの調査結果のとりまとめを行い、水源地の森の現状を把握するとともに、保全上の課題を整理。
川上村内の自然環境調査	12～2月	—	—	村内におけるニホンジカの分布状況を調査。
他機関との合同調査	通年	—	—	吉野川・紀の川流域の生物(魚類・水生昆虫)について和歌山県立自然博物館と「水源地の森」での魚類等を合同調査。

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者 11,916名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修。
「吉野川源流－水源地の森」管理	通年	48回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修。(入山者339名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	16回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修。

開館20周年記念に関わる取組み

20周年記念イベント	公益Ⅰ・Ⅱ	4/29 記念ライブをオンライン配信、11/23 やまぶきホールで開催のシンポジウムを同時配信 中継 計444再生
ホームページのリニューアル	公益Ⅱ	20年ぶりに森と水の源流館ホームページを刷新。ページ構成やレイアウトのわかりやすさを重視。
館パンフレットのリニューアル	公益Ⅳ	前年度での一部展示改修を反映し、利用シーンが写真で伝わることを重視。

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲 CD など)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(ペットボトル入湧水・雑貨品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)を販売している。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	8/22～12/31	3ha の二次林管理作業
和歌山市民の森体験学習業務委託	和歌山市	10/15・29	市の公募による参加者に森の散策等の学習会を開催。
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	4/11～2/28	農作業や源流散策など平野部との相互交流事業実施支援、報告書作成。
ESD の視点をいかした流域連携推進業務	川上村	12/1～3/20	「つなぎ合いプログラム」と称し、川上村役場、関連団体等の職員とともに勉強会を運営。
大滝ダム供用開始 10 周年記念イヤープロジェクト検討業務	川上村	10/3～3/20	令和5年度の大滝ダム 10 周年の年の水源地の村としてのアクションプランを検討。
東京海上日動(和歌山支店) Green Gift 地球元気プログラム	日本 NPO センター	4/1～9/30	流域の環境保護に関する啓発として、流域の団体と協同で生きもの観察会を実施。
森林環境教育における業務	田原本町	5/20～12/31	森林環境譲与税にかかわる事業。間伐見学他の体験ツアー
奈良県特定希少野生動植物コサナエ保護管理事業に係る指導、協力	(一財)下北山むらづくりセンター	5/1～12/22	現地調査への同行、普及啓発活動への協力、景観保全へのアドバイス。

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアーを含めた研修の受け入れなどを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月・11月、また7月予定ぶんを3月に延期して開催。3月は「水源地の森」手前での安全対策により、通常と異なるコースで実施。



【団体・企業の研修等での利用】



奈良県フォレスターアカデミー(11/19)



奈良ダイハツ株式会社(12/6)

【環境教育支援(学校対応)】

コロナ対策で学校来館時の貸切対応は継続。学校利用状況はコロナ以前並みに増えている。



天理市立丹波市小学校3～5年生(11/1)



和歌山市立砂山小学校4年生出張源流教(11/4)

【森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー(近畿 ESD コンソーシアム)】

現役教員を対象に、実際に学校で行う授業の単元計画作成に対して奈良教育大学が指導にあたるセミナーを年間 5 回とおして開催。(オンライン含む)最終回には実践報告会を実施。



授業づくりセミナー実践報告会(2/11)

【ESD の取組発信】



和歌山県内の環境イベントにて学習報告と募金活動。(橋本市立あやの台小学校)



学習成果を「海洋サミット」で発表
(和歌山市立雑賀小学校)



「しらすまつり」で
紀の川のめぐみラーメン販売
(和歌山市立雑賀小学校)

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

相変わらずコロナ禍の影響で、他の地域へ出での交流や、また川上村での大規模な交流行事の機会は少ないが、可能な機会と手段で発信を行った。

【源流のつどい】

旧白屋地区での草刈りボランティアと同時に外来植物についての学習と駆除。(6/4)



【夏休み館内プログラム】



「木の端材のネックレスづくり」(8/8)



「お散歩自然観察会」(7/29)

【流域等各地での情報発信・PR、啓発活動】



和歌山市「しらすまつり」(11/3)では学習支援を行った学校といっしょにステージで発表会

【水源地の森守募金】

通年の呼びかけや、「水源地の森」ツアーなどにかかる環境協力金で集まった募金で「水源地の森」保全の啓発パンフレット等の印刷、看板の製作に充てた。



【機関誌『ぼたり』No.54・55・56号発刊】

活動報告や調査結果などを記載し、夏・秋・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布している。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

源流域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

【吉野川紀の川しらべ隊】

「川上村の外来種をしらべよう」	
調査内容 川上村白屋～北塩谷間の外来種を調査	実施期間、時期 令和4年5月29日
概要 村内に定着している特定外来生物ナルトサワギクの分布状況調査と駆除作業。公募で10名が参加。身近な環境に潜む外来生物の他の生きものへの影響や見つけた時の対処など啓発をはかった。	 <p>実施風景</p>

「シリーズ季節の昆虫をしらべる」	
調査内容 川上村西河(蜻蛉の滝)・旧白屋地区の昆虫を調査	実施期間、時期 令和4年4月10日・6月12日 8月14日・10月9日
概要 住民参加型定期調査として年4回、参加者を公募。午前は川上村西河(蜻蛉の滝)、午後は旧白屋地区で目視による昆虫の記録を行った。のべ30名参加。	 <p>実施風景(6/12 旧白屋地区)</p>

「源流のゴミをしらべよう」	
調査内容 投棄されたゴミの分別を通して環境保全を考える	実施期間、時期 令和4年8月20日
概要 TOYOTA SOCIAL FES!! Presents ～きれいな吉野川を未来に残そうプロジェクト～で公募により、30名が参加。村内で回収された川遊びやバーベキュー、キャンプが原因と考えられるゴミを見た参加者からは「まずは自分が行動したい」「消費のありかたを考え直さねばならない」という感想を得た。	 <p>実施風景</p>

【水源地の森自然環境調査】

吉野川源流-水源地の森の保全事業に関する環境調査	
調査内容 「水源地の森」の総合評価を行い、現状と課題を明らかにし、適切な管理と活用に向けた提案を行う	実施期間、時期 令和4年9月～令和5年2月
概要 過去20年間の調査結果のとりまとめを行うことにより、「水源地の森」の現状を明らかにし、実施可能な保全策の提案や「かわかみ源流ツーリズム」で活用できる基礎資料となる報告書にまとめた。	

水源地の森下層植生調査	
調査内容 「吉野川源流-水源地の森」内の下層植生を調査	実施期間、時期 令和4年6月・10月
概要 平成18年度より継続しているモニタリング調査。「水源地の森」内に設置したニホンジカの食害を防ぐ防鹿柵内外において下層植生を比較し、ニホンジカの食害による影響と防鹿柵内の植生回復状況について調査した。	 <p>調査風景(10/8)</p>

川上村内の自然環境調査	
調査内容 シカ糞粒法による個体数調査	実施期間、時期 令和4年12月～令和5年2月
概要 令和3年度から開始した川上村内におけるニホンジカの生息状況調査のうち、林業体験の森において過年度同様にシカ糞粒法を用いて個体数調査を行った。また、村民参加型調査として、川上村自然観察研究会協力のもと、フィールドサイン法(糞塊)を用いた分布調査を行った。	 <p>調査風景(2/20)</p>

【他機関との合同調査】

吉野川紀の川流域の生きもの調査	
調査内容 吉野川紀の川流域の生物多様性調査	実施期間、時期 令和4年4月～令和5年3月
概要 和歌山県立自然博物館と合同で吉野川・紀の川の生物相調査を実施した。調査で得られた魚類は中流水槽の生態展示に活用した。また、本調査において紀の川流域で初記録となるオオサカサナエを確認し、和歌山県立自然博物館と連名で発見速報展示を両館同時に開催した。	 <p>オオサカサナエ速報展示</p>

川上村魚類調査	
調査内容 ブラウントラウト及びカジカ大卵型生息状況調査	実施期間、時期 令和4年7月～令和5年3月
概要 川上村漁協が注意喚起をしている外来魚ブラウントラウトの生息状況調査と、全国的に希少なカジカ大卵型の生息状況調査を川上村漁協の協力のもと、和歌山県立自然博物館と合同で調査を実施した。	 <p>調査風景(12/20)</p>

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

指定管理協定にもとづき年間の施設の維持管理・運営管理として、案内や企画展などを開催。

【企画展】

ユネスコエコパークと川上村(4/29～11/29)

開館 20 周年記念企画展として、「川上村の自然と民俗利用」「人里の自然」「水源地の森」の三部構成の展示から、川上村に暮らす人と森の関りが、人が自然と共生しながら持続可能な暮らしを目指すユネスコエコパークの理念に合致していることを紹介した。



【吉野川源流－水源地の森・「水源地の森交流施設」の管理】

「水源地の森」及び休憩小屋・管理棟の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施。

散策道の修繕のほか、「水源地の森守募金」を用いて、「水源地の森交流施設」に、ゴミの投棄、山林周辺での火気使用の禁止を呼びかける啓発看板を設置した。



渡渉木橋の修理



散策道の整備

開館20周年記念に関わる取組み

【開館20年事業の周知】

折にふれて開館20周年の周知徹底を行った。



1年間使用した開館20周年のシンボルマーク

【記念ライブ】

開館記念日にあたる4月29日は「継続の先にひらくあらたな未来」をテーマに森と水の源流館からYouTubeでライブ配信を行った。開館にかかわった職員らも参加し、設立のおもいや意図をあらためて共有、またESDや博物館連携など、近年の動きにかかわるキーパソンらとともに、20年間のあゆみと、未来への決意を共有した。



配信映像は一部編集し、森と水の源流館公式YouTubeチャンネルにて公開している。

【記念シンポジウム】

「川上村源流の日」に近いところで11月23日やまぶきホールを会場にシンポジウムを開催。テーマは、「樹と水と人の共生を未来につなぐ」奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所と連携し、川上村の自然との共生について、林業の歴史、課題から考察することを基調講演で行ったあと、その理念をどのように活かすか、活かしているかについて、ESDや地域づくり等の広い視点から提言を寄せるシンポジウムを行った。本会場のほか、2か所のサテライト会場を設け、オンラインでつなぐとともに、YouTubeでライブ配信も行い、あわせて120人が参加した。配信映像は一部編集し、森と水の源流館公式YouTubeチャンネルにて公開している。

第22 国生研生研センターシンポジウム・第76 前紀伊半島学研究所シンポジウム
樹と水と人の共生を未来へつなぐ
2022年11月23日(水・祝)
13:00~16:30 12:30開場

吉野林業に由来する自然の健全と経済活動の両立から、川上村の自然と人の共生を未来へつなぐために、ユネスコエコパークとESDの視点で考えます

川上村総合センターやまぶきホール 定員100名 申込フォーム [Zoom](#) 申し込みはこちら
奈良女子大学 定員35名
東吉野村 定員15名
YouTube 森と水の源流館公式チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCmLW5JBJK70NcDAjnJgUMQ>

基調講演
「吉野林業—森林と人間の関わりを極致」
登 島二氏 (慶應大学名誉教授、吉野林業研究家)
視点提供
「川上村・水源地の森の自然環境」
藤田 岳人氏 (関西大学先端理工学部准教授、公益財団法人吉野川紀の川源流地理理事)
「地域の自然と経済を活かせる人づくり」
中澤 静典氏 (奈良教育大学 ESD・SDGsセンター長)
「川上宣言×SDGs」
宮口 優樹氏 (早稲田大学名誉教授、公益財団法人吉野川紀の川源流地理理事)
コメンテーター 奈良女子大学教員、他

共催 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所、国生研生研センター、前紀伊半島学研究所、奈良・奈良県川上村
協賛 公益財団法人吉野川紀の川源流地理 森と水の源流館
企画・実行 森と水の源流館
〒919-8511 奈良県吉野郡川上村家原
Tel 0749-52-0862 Fax 0749-52-0288 info@fory.jp <http://www.fory.or.jp/>

【館パンフレットのリニューアル】

令和3年度末までに行った一部展示リニューアルを反映し、利用シーンの写真を取り入れたパンフレットとするため、リニューアルオープンからあえて1年遅らせて製作した。

～パンフレットのコンセプト～

- ・「源流はモノゴトのはじまり、はじまりは未来とつながる」をテーマに
- ・一見不思議な「イ」「ロ」「ハ」という言葉を表紙に配している
- ・イロハは「ことのはじめ」つまり、基本をあらわす
- ・丸・三角・四角という基本的カタチを用い、それぞれのカラーは森と水の源流館の3つのゾーンのテーマカラーとなっている。
- ・きちんと整然と並べることで「基本を大切にす気持ち」、原点や自然への畏敬の念を表現しながらも、楽しくPOPに、時に躍動的に展開している。
- ・ラック等へ配架時の視認度を高めるためA4サイズとして前面に基本情報をまとめた。
- ・観音開きを左へ、右へ開くごとに各ゾーンへつながる。
- ・そのままタテに4分割に折ることや、さらに折ってポケットサイズにできるなど、多様な折を誘導する画面分割のデザインとしている。
- ・「もらって楽しい」「何年つかっても飽きない」パンフレットをめざした。



【ホームページのリニューアル】

パンフレット同様に、一部リニューアルされた展示の利用シーンが伝わるようにしている。開館時から初めて的大幅リニューアルとなったが、凝りすぎたものとせず、得たい情報に素直にたどりつきやすいページ構成としたことも森と水の源流館らしいといえる。



収益事業（受託事業）

【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】(川上村)

大和平野土地改良区と川上村が共催する吉野川分水受益地と水源地域の交流事業。
橿原市立香久山小学校と川上小学校がそれぞれの地域で体験を行い、水源地域と大和平野が吉野川分水でつながっていることを実感する。



稲刈り体験(10/25)(橿原市内)



源流体験(11/25)

【東京海上日動和歌山支店 Green Gift 地球元気プログラム】(日本 NPO センター)

ステークホルダーとして和歌山県立自然博物館に協力してもらい、紀の川の水が育む生物多様性の啓発と、環境保全への動機づけを行うことにより、身近な河川へ興味を持ってもらい、水源地域へとおもいをめぐらせるきっかけ作りを行った。



紀の川河川敷の生きもの観察(6/18)



磯の生きもの観察(7/24)

【ESD の視点をいかした流域連携推進業務】(「つなぎ合いプログラム」)

「仕事をつなぐ！ 役割をつなぐ！ 人をつなぐ！ 意識をつなぐ！」を共通目標に、川上村役場各課、教育委員会、一般財団法人かわかみ源流ツーリズム、公益財団法人 吉野川紀の川源流物からの参加を得て、勉強会を運営。



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

歴史や昆虫展示一部刷新

森と水の源流館 きょうオープン

1月から改装のため休館していた、川上村の森と水の源流館が、1日から展示を一部刷新してオープンする。村の森の歴史や昆虫を



森林などに関する展示を充実させた森と水の源流館(川上村)

紹介するコーナーを新設するなど、源流の魅力をさらに詳しく伝える内容になっている。

森の歴史の展示では、室町時代以降に伐採が始まり、吉野川からいかだを組んで木材を供給したことなどをパネルで紹介。川をいかだで下る様子の模型も置いた。

昆虫に関する展示では、トンボやチョウなど、流域で採集した昆虫の標本を並べているほか、QRコードを設置し、スマートフォンをかざすと虫を動画で見られるようにした。

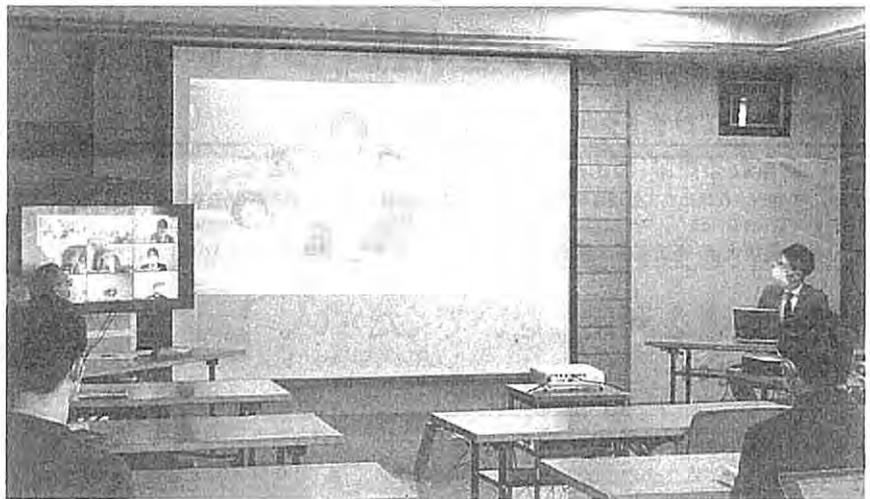
このほか、和歌山市までの紀ノ川(吉野川)の流域にすむ魚や、縄文時代以降の流域での人々の暮らしなども紹介。源流館の担当者は「今まで以上に分かりやすく展示しているので、学びに来てほしい」と呼びかけている。

開館時間は午前9時から午後5時(入館は4時30分まで)で、水曜(祝日の場合は翌日)休館。入館料は高校生以上400円、小学生200円。問い合わせは源流館(0746・52・08888)。

「村内の水、飲み比べた」

川上小が実践報告

水源地からの学びを展開する小学校の授業を通してこれらの教育を考えるセミナーがこのほど、川上村であり、県内外の教員や地域住民ら計約40人が参加(オンライン含む)した。



教員や地域住民が実践報告と意見交換を行った「森と水の源流館ESD授業づくりセミナー」=川上村迫の村役場

水源地の学び探る

川上でESDセミナー

同村の「森と水の源流館」はDの狙い。「地域ESD活動推進拠点」として、ESD(持続可能な開発のための教育)を支援、推進している。地球規模の課題に向

南小学校、川上村立川上小学校が実践報告し、授業づくりについて意見交換を行った。

山ノ内町立南小は志賀高原ユネスコエコパーク内にあり、冬は学校でも毎日スキーで遊べるような環境。地元の源流部が放置(みで汚されている現状を知り、環境保全について考えた。吉野川の水源地保全に取り組み川上村の活動に興味を持ち、森と水の源流館とオンラインで交流して理解を深めた経過などを報告した。

川上小の4年生5人は村内各地区の水を飲み比べるなど身近な目線からスタートし「水」をテーマに学びを深めた。源流館スタッフの案内で水源地の森を訪れて美しい水の大切さを実感。子どもの感性と「本物の自然」が響き合う学びの場面が発表された。

ESD推進の核となっている奈良教育大学の中沢静男准教授(62)は「持続可能な地域づくりでは、トップダウン的な行政の姿勢に加えてボトムアップが必要」とし、「ESDを学んだ小中学生が社会に向けて行動する『下からの突き上げ』は大きな力だ」とESDが果たす役割を協調した。

森と水の源流館は今年度以降も各学校に応じたESDの相談に対応する。問い合わせは同館、電話0746(52)08888。

20年の歩み語り合う

「森と水の源流館」 イベント配信

川上村迫の環 境学習施設「森 と水の源流館」

は4月29日、開館20周年の記念イベントを開き、オンラインで配信



した。記念イベントでは、開館当初の職員や環境学習で利用する教育関係者、流域で連携する和歌山県立自然博物館の学芸員らがりレ

形式でトークを披露。森林保全活動の拠点施設としての歩みや意義などを語り合っ

た。参加した栗山忠昭村長は「一滴のしずくか

ら川が生まれるように、多くの人たちが巻き込んできた。村の理念が当たり前になるようこれからも取り組んでいく」と話した。

【高田房一郎】

川上・「森と水の源流館」20周年で記念ライブ

川上村の環境学習施設「森と水の源流館」は29日、開館20周年を迎えた。記念ライブは、事業の立ち上げや新しい取り組みの関係者計12人のリレートークを約2時間にわたって展開。オンラインで配信した。

第一部は初代館長の辻谷達雄さん(88)や開館時の村職員らの話を聞き、原点を見つめ直した。村が自治体として掲げた「水源地の村づくり」を具現化する拠点施設として歩んだ。第二部は和歌山県立自然博物館の学芸員や小学校教員、大学教授らを招き、流

域交流やESD(持続可能な未来をつくる担い手を育成する教育)活動を推進する取り組みをクローズアップした。

環境省きんぎ環境館(大阪市)の中沢敦子さん(62)は「拠点施設と学校、自治体が連携してグレードアップしている」と評価し、「その先に持続可能な地域社会があるのでは」と話した。

栗山忠昭村長(71)は「水一滴から大河が生まれるように、信念が多くの人を巻き込んで広がった」と振り返り「水源地の村の理念がいつか世の中の当たり前になるように願って取り組む」と次代を見据えた。

源流館で生まれたESDテーマソング「水の旅のはなし」も演奏した記念ライブ29日、川上村の森と水の源流館



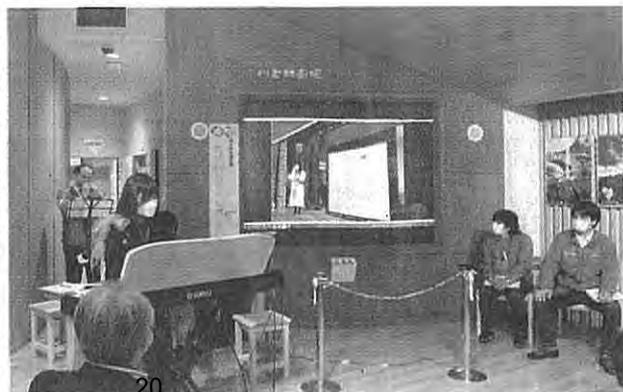
水源地の未来語る

川上村

開館20年の歩み紹介

当時を振り返り秘話も

川上村迫の森と水の源流館は4月29日、開館20周年を記念したイベン



トを企画し、動画配信サイト「ユーチューブ」でライブ配信した。写真。初代館長の辻谷達雄さんや開館に携わった村職員が、当時の苦労話などを披露。現在の事業内容や流域連携の取り組みなども紹介し、20年間の歩みを振り返った。

見聞録

森と水の源流館(川上村)

開館20年 展示リニューアル

改装のため一時休館していた川上村の環境学習施設「森と水の源流館」が4月、展示を一部リニューアルしてオープンした。村の林業の歴史や昆虫を紹介するコーナーを新たに設けるなど、身近な自然の豊かさに目を向け、大切さを考えさせる内容になっている。同館の上西由恵主任に案内してもらい、新しい館内を見学した。

【富田房二郎】

同館は、吉野川水源地の森林保全に取り組み川上村が、水資源の重要性や森林が持つ保水能力などを体験的に学ぶでもらおうと2002年4月に開設。これまで20万人以上が訪れている。開館20年を機に、ESD(持続可能な開発のための教育)推進の視点にも立てて改装した。建物2階のエントランスに入



開館20年を機に展示を一部新たにした森と水の源流館—いずれも川上村で

るとまず、吉野杉のシート壁に記された「川上宣言」が目に入る。宣言は「下流にはいつもきれいな水を流します」などの項目からなり、「水と森を村をあげて守っていく」という村の決

山から海 環境や歴史学が

意が伝わってくる。続いて、山から海へと続く水のつながりを「緑のダム」や「ありがと」などのキーワード、図で示す大型パネル前で足が止まる。その奥の森の歴史の展示では、室町期ごろから伐採が始まり、いかなだを組んで川で流し木村を供給していたなどをパネル



や模型で紹介。原生林が残された理由や吉野林業繁栄の背景が見えてくる内容になっている。また、身近な自然とのふれあいに欠かせない昆虫の展示も充実している。トンボやチョウなど、流域で採集した標本が並ぶほか、館内に設けられたQRコードにスマートフォンをかざすと、昆虫の動画を見ることができようになっている。

動物の刺製や10歳を超える巨木が立ち並ぶジオラマや天然林の映像が見られる「源流の森」

「森と水の源流館 川上村迫1374-1。開館は午前9時、午後5時(入館は午後4時半まで)。水曜(祝日の場合は翌日)休館。見学時間は1時間程度。入館料高校生以上400円、小学生200円。問い合わせは同館(0746・52・08888)。

「森と水の源流館」はこれまで通りだ。上西さんは「村の自然、歴史、文化をより分かります、さらに深く学習できる施設となりました。子どもも体験学習にぜひ利用してほしい」と強調した。



①入り口に掲げられた「川上宣言」。左は同館の上西主任がキーワードを軸に水資源の大切さを示す大型パネルの川上村の歴史を写真や模型で伝える展示も



流域で採集した虫の標本も充実している

編集室

〒583-0033 藤井寺市小山1-1-18
☎・FAX 072(936)0990
Mobile 090(5160)6229
E-mail: sasayan-c@nifty.com
発行人 笹倉千里

ふれあい

⑦ 持続可能な未来に向けて 川上村の話

奈良県川上村は面積の95%が山林で、吉野川(紀の川)の最源流に位置する。人口1,156人(625世帯)高齢化率55.5%(2020年統計)の村が、都市にはない豊かな暮らしを築く挑戦をしている。

吉野林業で栄えた村が大滝ダム(2013年完成)で一変。村の中心部が水没するという建設計画を国が1962年に出し、村は右往左往した結果、1981年に工事着工に同意。「村民は長い反対運動にタタタで心も深いダムに沈んでい



創設20年目の今年4月にリニューアルした森と水の源流館。正面に「川上宣言」が掲げられている。左から水源課の森脇さん、中野さん、同課事務局長の尾上さん、水源課、加藤さん。

るようだった」と川上村水源課長の森脇深さんは話す。その5年後に企画したのが「湖底サミット」。これから村をどう生かすのかをみんなで話し合おうと村民や著名人が話し合い、そこで出てきたのが「源流の村として存在価値を發揮したい」という金字塔。それを受けて村は1994年に第3次総合計画「吉野川源流物語」を策定し、1996年に「川上宣言」を全国に発信、1999年には吉野川源流の原生林740haを3年かけて約10億円で購入し、吉野川源流一水源地の森として保全活動を行っている。

この日訪れたのは「森と水の源流館」。水源地の森に生まれた1滴の水が川になり、下流の様々な人とつながることが分かりやすく監修され、ESD(持続可能な未来

言の關係性を紐解き、川上宣言を具現化することが村民をはじめ下流域の人々の幸せになると、様々な施策を展開。その結果、都会から村への移住者も増えている。

川上宣言

- 私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たち川上は自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 私たち川上は都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 私たち川上はこれから育つ子ども達が、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくりまします。
- 私たち川上は川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけのすばらしい見本になるよう努めます。

読売新聞 R4. 8. 5

●がんばれ宿題「自由研究よろづ相談」 26日午前10時～正午と午後1～3時、川上村迫の森と水の源流館。小学生対象(1組15分程度)、標本の作り方や研究ノート

のまとめ方などの相談に応じる。予約優先(0746・52・0888)。入館料一般400円、小中学生200円が必要。

美しい自然守って

川上、吉野で「山と川の学校」

小学生ら山の役割など学ぶ

県条例に基づく「山の日・川の日」(7月第3月曜)の啓発事業の一環で、県内小学生対象の「山と川の学

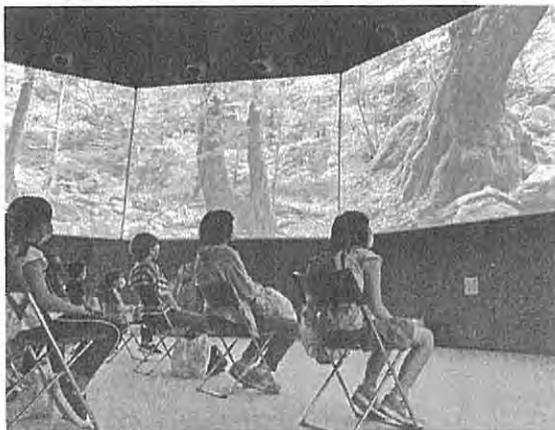
校」が21日、川上村などであり、親子ら15人が山の役割などを学んだ。川上村の環境教育施設



水の恵みや森の豊かさを学べる展示を見学する参加者=21日、川上村の森と水の源流館

「森と水の源流館」で開会式があり、県水資源政策課の芳川一宏課長が「美しい山や川を守っていくんだ」という気持ちを持つてくたさい」とあいさつ。源流館職員の上西由恵さんは「川上村は暮らしに欠かせない水のあるさです」と水源地の村の取り組みを紹介した。

館内見学のあとバスで吉野町に移動し、吉野ヒノキを使った工作に挑戦。自然



シアターで命をはくくむ水源地の森について学ぶ参加者=同

が持つ多様な役割や共生する人々の営みを知った。香芝市の吉岡優希子さん(10)実希子さん(8)姉妹は「美しい自然が好き。守るためにSDGs(持続可能な開発目標)も学び、実践できるように頑張りたい」と話した。

同村は全域がユネスコエコパーク大台ヶ原・大峯山・大杉谷の移行地域に指定されており、展示では吉野川源流にあたる水源地の森の保全の課題や、流域とのつながりをパネル

川上村の森と水の源流館で、企画展「ユネスコエコパークと川上村」が開かれている。水源地の森の保全などを解説するパネルのほか、希少な生きものを展示している。11月29日まで。

生体展示などで解説

川上村の森と水の源流館で、企画展「ユネスコエコパークと川上村」が開かれている。水源地の森の保全などを解説するパネルのほか、希少な生きものを展示している。11月29日まで。



生きたまま展示されているナガレヒキガエル＝川上村の森と水の源流館で

水源の森 希少動物たち

ないため幻のヘビといわれた「タカチホヘビ」の標本などを展示している。

水曜休館。問い合わせは同館(0746・52・0888)。

【高田房二郎】

川上村の森と水の源流館で、村内の森の保全について紹介する企画展「ユネスコエコパークと川上村」が開かれている。29日まで。ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は、豊かな生態系があり、持続可能な経済活動を進めるモデル地域。国内では、川上村を含む「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」など10地域が認定されている。

◆森と水の源流館企画展「ユネスコエコパークと川上村～水源地の森～ユネスコエコパーク緩衝地域～」 11月29日まで、森と水の源流館(川上村宮の平、0746・52・0888)。ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は豊かな生態系と生物多様性を守りながら持続可能な発展をめざす地域が認定される。500年手つかずだった天然林「吉野川源流～水源地の森」の保全をパネルで展示。水源地の森に暮らす生き物のうち、溪流で産卵する世界的に珍しいヒキガエル「ナガレヒキガエル」を生体展示。「幻のヘビ」と言われ虹色に輝く「タカチホヘビ」と赤と黒の市松模様のヘビ「ジムグリ」は標本を展示する。生体展示は早く終わる可能性も。高校生以上400円、小中学生200円。水曜休館(水曜が祝日の場合は翌日)。

川上の森の保全 知って 源流館でパネル展示



造林が始まったことや、近年は倒木を原因とした土壌

川上村の森の保全について紹介するパネル(川上村で)

流出で、斜面崩壊の恐れがあることなどを説明している。また、村内に生息し、県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている「ナガレヒキガエル」を特別な許可を得て捕獲し、生きたまま展示している。

水曜休館で午前9時～午後5時。入館料は高校生以上400円、小中学生200円。問い合わせは同館(0746・52・0888)。

森と水の源流館 開館20年シンポ

吉野林業や環境保護

川上村の森と水の源流館の開館20周年を記念するシンポジウム「樹と水と人の共生を未来へつなぐ」が23日、村総合センターで開かれ、吉野林業や環境保護に関する講演などが行われた



写真

同館と奈良女子大などが企画。吉野林業を研究する泉英二・愛媛大名誉教授が基調講演し、「江戸時代に吉野地方で林業が発展したのは、いかだによる流送路が確保されたから」と解説。また、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて、「(化石燃料の代替となる)植物資源に頼らないといけない」とし、林業を守る必要性を強調した。

横田岳人・龍谷大准教授

は、同村の自然環境を説明。鹿による食害で下草が減り、土壌流出につながっている点などを指摘した。

環境保全、考えよう

川上で「トヨタソーシャルフェス」

BBQ用 網など 河川ごみを調査

アウトドアブームによって川上村の河川で起きているごみの不法投棄問題について考えてもらう催しが20日、同村迫の「森と水の源流館」で開かれた。家族連れや大学生ら約30人が参加し、実際に捨てられたごみの調査などを通じて環境保全への理解を深めた。催しは、同館や奈良新聞社が主催する地域の環境保全を目的としたイベント



川上村の河川に捨てられたバーベキュー用の網を見る参加者
20日、川上村迫の「森と水の源流館」

「トヨタソーシャルフェス2022」。参加者は中興川や上多古川など村内4河川で捨てられ、回収されたバーベキュー

用の網や炭、ペットボトル、生ごみを実物と写真で確認。同館職員が、ごみが捨てられることで生物や土壌に悪影響があることを説明し「自分ごととして考えてもらいたい」と呼び掛けた。王寺町から家族5人で参加した小学4年西本玲央君(9)は「空き缶がこんなに捨ててあるなんて知らなかった。これからもごみを捨てない」と話した。

奈良県川上村

価値を高める。



新年あけましておめでとうございます。
おかげさまで、昨年は充実した20周年となりました。
これからも未来へ向けて
ESDへの取組みをはじめ、さまざまな活動と出会いで
源流地域と流域の価値をいかしてまいります。

かわかみ源流グループ

森と水の源流館



電話:0746-52-0888
FAX:0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp>
新年は1月5日(木)から開館いたします。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

紀の川に希少トンボ「オオサカサナエ」

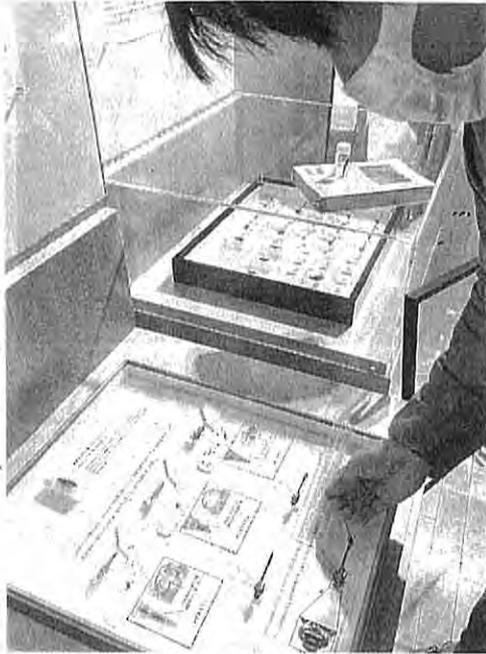
川上「森と水の源流館」でヤゴ標本展示

豊かな水源地 発信

琵琶湖や淀川水系に生息する希少なトンボで、環境省レッドリスト絶滅危惧種Ⅱ類のオオサカサナエ（サナエトンボ科）が昨年、和歌山県内の紀の川中流域で初めて見つかった。川上村の環境教育施設「森と水の源流館」は現在、そのヤゴ（終齢幼虫）の標本を展示している。31日まで。

生息地南限を更新

源流館と和歌山県立自然博物館（海南市）が川上村の水源地から河口まで紀の川（吉野川）全域で行っている合同調査で見つかった。オオサカサナエはロシア極東や朝鮮半島などに分布している。水河期に日本列島と大陸が陸続きだったことを証明し、今回の発見で紀の川



紀の川で生息を確認したオオサカサナエを紹介する展示＝10日、川上村の森と水の源流館

奈良新聞 R5. 1.12

は生息の南限更新になる。

源流館職員の高山睦さん（41）＝昆虫生態学Ⅱは「中央構造線のライン上なので、もともと分布していたと考えられる。安定した生息環境が保たれているのだらう」と指摘する。展示のヤゴは約4センチで、下唇の先が薄いことなどがオオサカサナエの特徴という。成虫は体長約6センチで、調査チームは紀の川流域の成虫情報を募っている。高山さんは「多様な生きものが生息する紀の川流域の環境の豊かさを今年も広く発信していきたい」と話す。

希少なトンボ分布図更新

川上和歌山で初確認調査報告

川上村の森と水の源流館で、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されているトンボの一種のオオサカサナエが、吉野川下流の紀の川（和歌山県）で初めて発見されたことを紹介する展示が行われている。幼虫や成虫、抜け殻の標本約40点が並ぶ。31日まで。

オオサカサナエは体長6センチほど。国外では朝鮮半島や中国、ロシアの極東に、国内では琵琶湖周辺や東海地方に分布し、県内でも奈良市や三郷町で確認されて

読売新聞 R5. 1.18

いる。「オオサカ」の名は最初に発見された大阪市にちなむ。同館が昨年5月、和歌山県立自然博物館と合同で紀の川の生物を調査した際、5体の幼虫を同県内で初めて発見。三重県の榎田川水系とされていた分布の南限を更新した。展示は調査結果の速報として開催している。

今回発見された幼虫や所蔵する成虫の標本のほか、キイロヤマトンボ、サナエトンボなど他の希少種の幼虫や成体、抜け殻の標本もある。同館職員の高山睦さん（41）は「希少なオオサカサナエが見つかった驚いた。村を源流とする吉野川、紀の川の水が、生物多様性を支えていることを知ってほしい」と話している。



オオサカサナエの幼虫などの標本を手にする高山さん（川上村で）



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp